

# 旧名古屋銀行一宮支店 (一宮市役所西分庁舎)

所在地 一宮市本町2丁目  
所有者 一宮市

竣工年 大正13年(1924)  
構造等 鉄筋コンクリート造

明治にはいると一宮村は、真清田神社門前の三八市を中心に、綿糸や織物などの流通拠点として大きな発展をみせました。流通の発展は資金の需要を生み、一宮村にも、地元有力商人などの手により、新しい金融機関として「銀行」が誕生することとなります。

明治14年(1881)11月に村内第一号の一宮銀行が開設し、町制施行後の26年には綿糸商豊島半七により、豊島銀行が創設されます。豊島銀行は、織物業者への貸し付けを主目的とした個人銀行でしたが、明治39年になると、経営規模の拡大を進めていた名古屋銀行へ営業を譲渡し、同行一宮支店となりました。

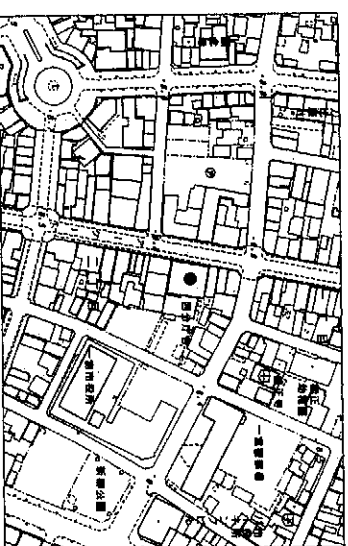


図1 所在地

その後、昭和16年、名古屋銀行は愛知・伊藤両銀行と合併し東海銀行となりますが、建物は一宮支店として引きつがれます。しかし、55年にはその東海銀行も移転し、一宮市の所有となり現在に至るまで市役所の施設として活用されています。

建物の外観は、大正から昭和戦前期に建てられた多くの銀行建築と同様、正面には列柱が取りつけられています。(写真1,2,4) 外装については人造石壁仕上げでしたが、経年による剥落のため、改修が行われ、現在は吹付タイル仕上げとなっています。

また、建物の内部は、東海銀行時代にも手を加えています。当初の姿からは大きく異なっています。銀行時代、玄関から店内へ入ると、吹き抜けになった客席と営業室が広がり、半円アーチが並んだ二階の壁面を一望することができました。しかし、現在は吹き抜けをおさいたため、柱や梁に残された一部の装飾を見ることしかできません。(写真6-1,6-2)

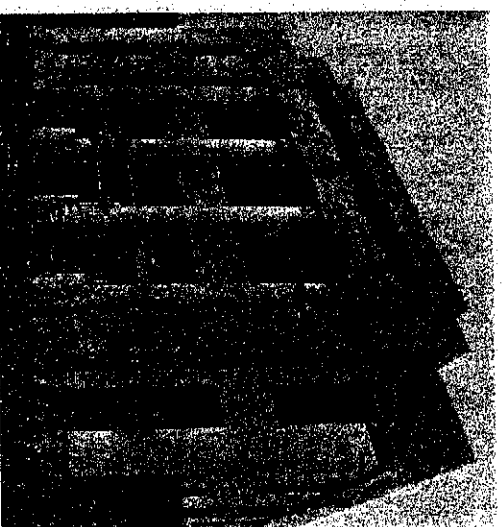


写真1 旧名古屋銀行一宮支店正面(昭和14年頃)

大正13年(1924)、名古屋銀行は、当時地方都市ではまだ珍しい鉄筋コンクリート造で一宮支店を新築します。施工者は分かっていませんが、設計は鈴木楳次が行っています。鈴木は明治3年(1870)静岡に生まれ、帝国大学工科大学を卒業後、三井銀行建築係に就任、英仏留学を経て、39年には前年開校したばかりの名古屋高等工業学校へ着任し、教授・建築科長を命じられます。彼は在任中または同校退官後、鶴舞公園噴水塔、松坂屋いとう呉服店(名古屋初の百貨店建築)、旧共同火災保険名古屋支店(名古屋初の鉄骨鉄筋コンクリート造)、松坂屋本店など多くの建築を手がけ、名古屋を中心とした愛知県の近代建築史のなかで大きな役割を果たしています。

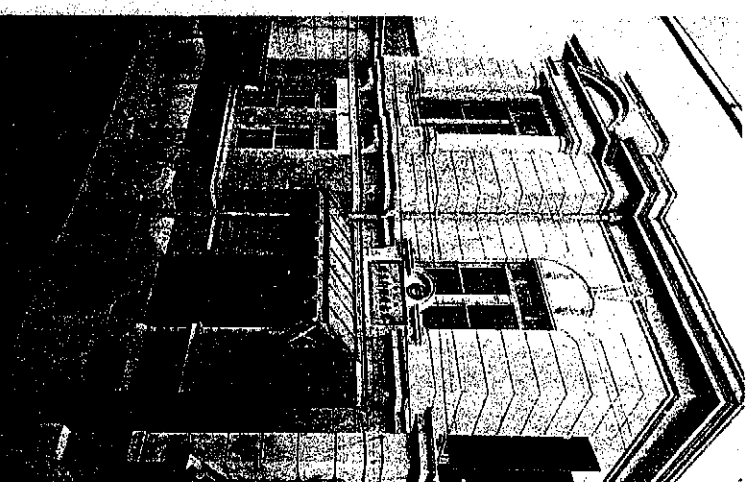


写真3 旧名古屋銀行一宮支店  
旧建物(明治44年頃)

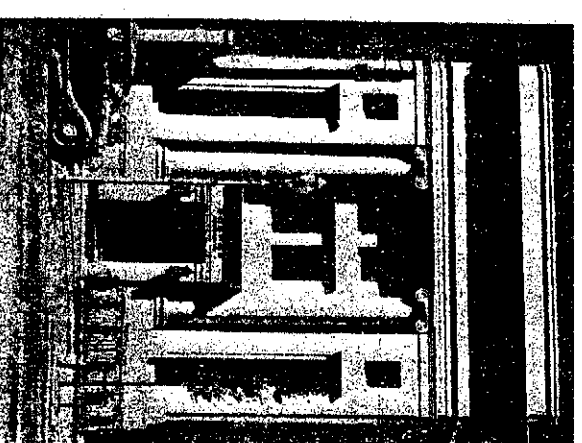


写真4 尾州銀行一宮支店(昭和14年頃)

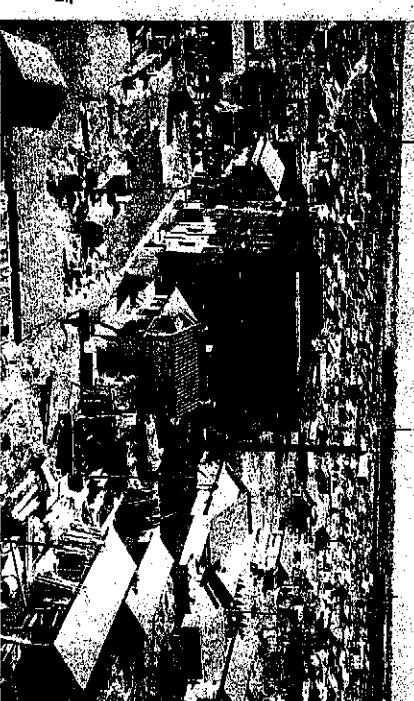


写真5 震災を免れた  
旧名古屋銀行一宮支店  
(昭和21年)  
杉本敬郎氏撮影

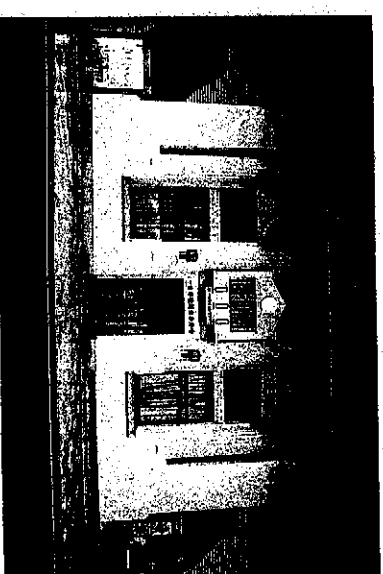


写真2 現在の西分庁舎正面

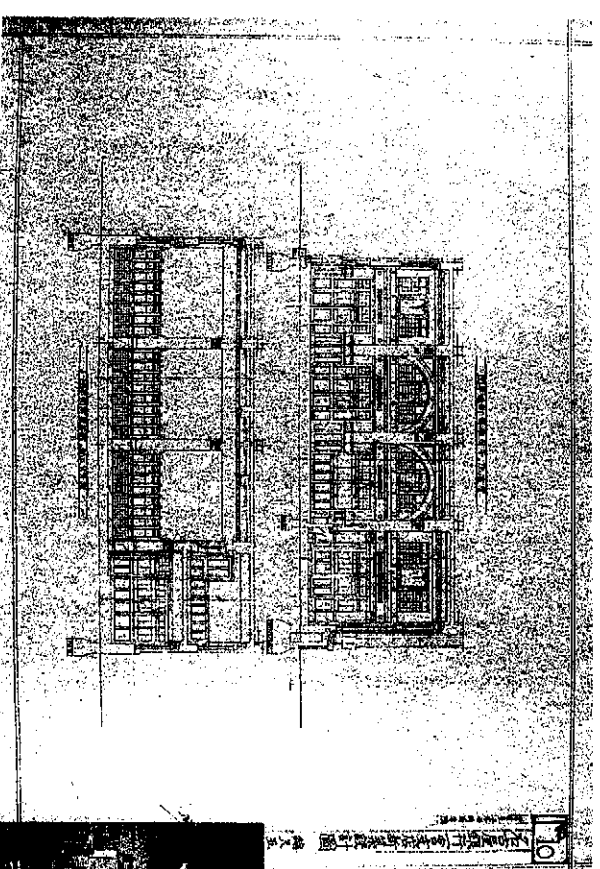
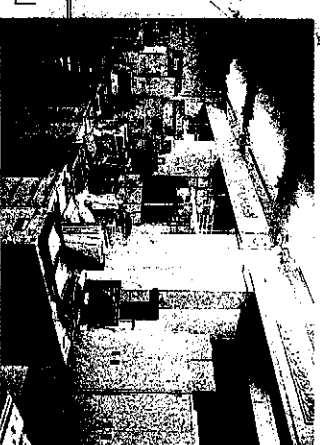
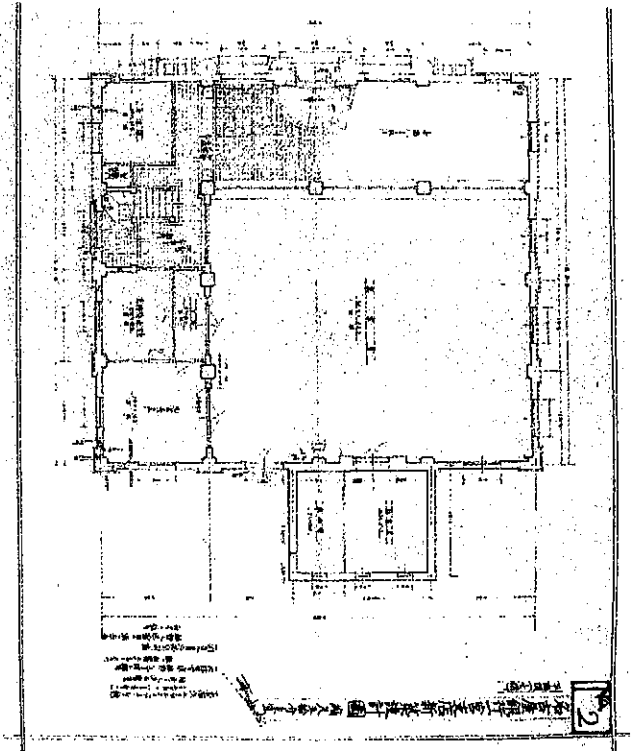
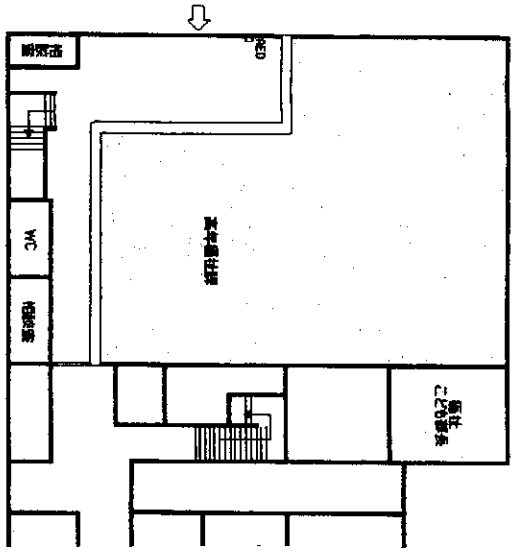


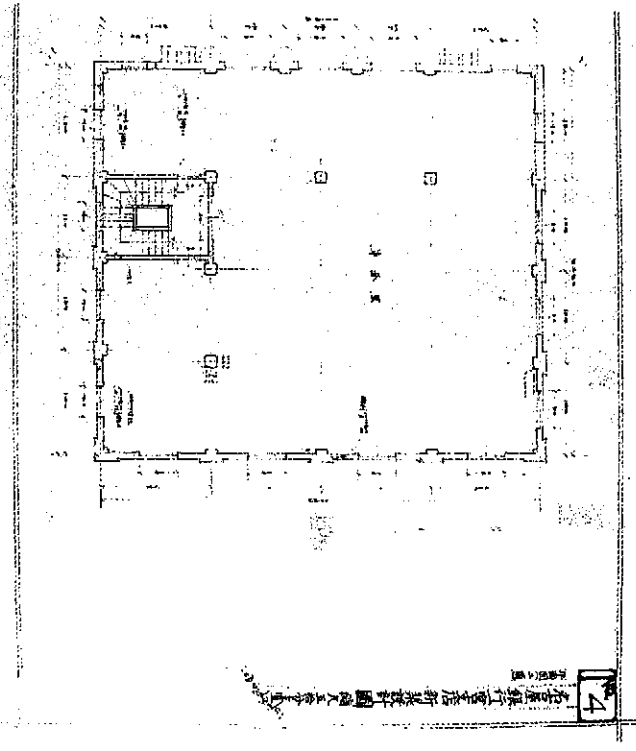
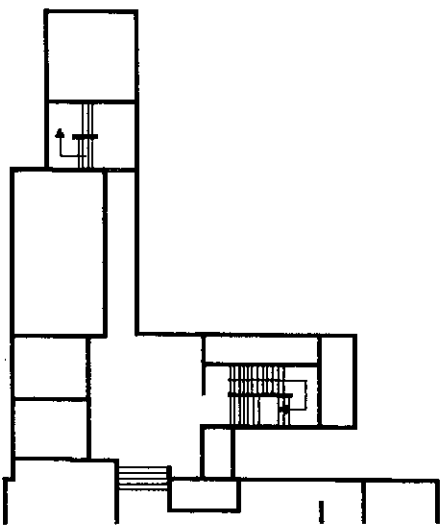
写真6-1 「営業室及客席断面図」  
写真6-2 現在の事務室付近



出典は前出と同じ



「平面图(卷階)」



「平面图(二階)」